



自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

田んぼと 生物多様性

昆虫や動物、
生きものたちのすみか

VOL.

12

AUTUMN
2016

香川県小豆島の中央部、急峻な山腹に約700年前から作られた大小700枚あまりの棚田が存在する山里。豊かな湧き水を活かした棚田で、里山に特徴的なメジロやホタルなどが多数生息している。

※特定非営利活動法人「農と自然の研究所」、
特定非営利活動法人「生物多様性農業支援センター」発行

日本人の主食でもある「お米」。お米が作られる田んぼには、どのくらい生きものたちが住んでいるでしょうか。田んぼは米だけでなく、魚介類や野菜などさまざまな食材を生み出し、昆虫や動物のすみかとして、「多様な生命のゆりかご」となっています。『田んぼの生きもの全種リスト改訂版※』（2010年）によると、実に5668種の生きものが確認されています。

日本の稲作は2千年ほど前から始まり、現在では沖縄から北海道まで、日本全国で行われています。

日本の生きものたちに優しいお米作りを実践することで、絶滅の危機にある鳥たちをはじめ、多くの生きものにとって、田んぼが絶好の餌場、すみかとなります。

田んぼと 生物多様性

アキアカネ

初夏に田んぼで羽化し、夏は涼しい高原で過ごし、秋になると田んぼへ戻って産卵する。

マガン

田んぼで稲の落ち穂を食べる、冬鳥。くちばしの付け根から額にかけて白く、全体が茶色。

メダカ

「幅広のヒレを持つ稲の魚」という学名を持つ。水面近くのミジンコやプランクトンを食べる。

ドジョウ

田んぼなど浅い泥底に住み、水がなくなると泥の中に潜ることも。10本の口ひげが特徴。

イトミミズ

水の中でも生きて行くことができ、土を食べ、耕し肥やす。食物連鎖を通じ、生態系を豊かにする。

カブトエビのなかま

カブトガニを小さくしたような甲殻類。春から初夏に発生し、草を食べるので、除草効果もある。

トノサマガエル

田んぼに住み、オタマジャクシからカエルになっても、水の中や水辺に。初夏の大合唱が風物詩。

環境に優しい農法とお米



さまざまな生きものが集まる田んぼのためにできる農法とそれを実践した田んぼで採れたお米があります。環境のためにできる選択肢

「ふゆみずたんぼ」「なつみずたんぼ」



米収穫後の冬季、麦の収穫後の夏季に田んぼに水を張ることで、菌類やイトミミズなどの多様な生物を息づかせ、雑草の繁殖を防ぐほか、渡り鳥等の餌場となることから、環境に配慮した農法です。ふゆみずたんぼを行っている栗原市、登米市、大崎市にまたがる「蕪葉沼・周辺水田」は国際的に重要な湿地として、ラムサール条約湿地に登録されています。

湿地保全のための「ラムサール条約」

「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」さまざまな生きものや人々の暮らしを支えている湿地とその生態系の「保全・再生」と「ワズユース(賢明な利用)」の促進を目的とした地球規模の条約。

安心・安全でおいしい 認証米とは？

なつみずたんぼ、ふゆみずたんぼなど、環境に優しい農法によって作られたお米はブランド米としても販売されています。それぞれの自治体の認定基準に合ったお米を認証米として認定するとともに、認証マークを出しています。



魚のゆりかご水田米 滋賀県

農業水路に魚道を設置し、かつてのように琵琶湖周辺の水田で湖魚が産卵・繁殖できる環境を取り戻す取り組みをしている水田でつくられたお米です。



コウノトリ育むお米 兵庫県豊岡市

農業や化学肥料に頼らず、水管理に工夫を凝らし、たくさん生きものたちと育つお米です。市内の公立学校の給食で使用され、食育にも貢献しています。

INTERVIEW

大桃美代子

(タレント、女優)

おおももみよこ 2015年より国連生物多様性の10年日本委員会が任命する「生物多様性リーダー」として活躍。



食育の大切さを田んぼから伝えます。

Q 新潟の田んぼで、古代米の栽培をされていらっしゃいますね。

A 中越大地震の際に新潟県魚沼市の実家で被災しました。復興の応援になればと農業で発信できることはないかと考えました。黒米で白米と混ぜるとピンク色になってきれいなんです。生命力が強く、復興していくというイメージとも繋がりました。まず農地を借りるのが大変で。

Q 2007年の活動開始から10年目になりますね。

A 現在は新潟市の協力を得て、田んぼは魚沼市から新潟市に移り、食育という形で農業法人さんと協働しています。田植え、草取りと生きもの調査、稲刈り、収穫の年4回、地元の子供たちと行って、環境に配慮した農業

や食育の大切さを伝えていきます。東日本大震災の復興のために、福島県矢吹町では「田んぼの学校」の校長先生も務めています。

Q 田んぼの生きもの調査も？

A 夏に無農薬の田んぼと減農薬で1回だけ農薬を使った田んぼの両方を調査します。一方はコナギなどの植物がぎっしり、もう一方は除草されたきれいな田んぼなんです。生きものは無農薬の方が4種類ほど多いのですが、数だとうじゃうじゃいるのとまばらにいるのくらい、圧倒的な差があります。

Q どんな生きものがいますか？

A ミミズからカエルやフナまで、本当にたくさんいますよ。2年目からはドジョウがいて、土が改良されて生きやすくなっているのがわかりました。今年



新潟市長を囲む稲刈り風景。

はカワシジミが見つかったんです。水質の指標動物で水路がきれいになったおかげだと思います。

Q そうなると毎年の生きものの変化が楽しみになりますね。

A 農薬がダメということではありませんが、生きものが住みやすい環境はそこで育ったお米も私たちにとっていいものであるはず。生きものたちのおかげで苗や稲が育ち、すべての生きものがつながっているということを田んぼに教えられます。

コサギ

水田や河原でよく見かける白羽の鳥。昆虫や魚、カエルなどを長い脚とクチバシを使って捕獲する。



水が満たされ、稲が植えられといろいろな生きものが集まってきます。鳥や哺乳類から、カエルなどの両生類、魚類、昆虫まで多種多様。田んぼはお米を育てるだけでなく、生きものも育てる場所なのです。

田んぼにいる 多様な生きものたち。

タンポポのなかま

あぜ道で見られる植物。カントウタンポポは日本在来種。外来種のセイヨウタンポポが広く分布。

ハクセキレイ

白い顔に目を通して走る黒い線、長めの尾が特徴。エサを求めて田んぼを歩き、澄んだ声で鳴く。



タヌキ

人里にも住むイヌ科の哺乳類。田んぼや畑にカエルやネズミを求めてやってくることもある。



スミレのなかま

田んぼのまわりや乾燥した地面にも咲く多年草。種類が多く、日本産のスミレ属は約50種。

生物多様性のことを多くの人に
知ってもらうために、2012年9
月に旗揚げした様々な団体のキ
ャラクターによる広報組織です。



生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

サドッキー

(新潟県佐渡市)

トキがモチーフのサドッキー。両翼で優しく
抱くのは佐渡を象徴する美しい海と山、川で
す。豊かな自然環境の中で、人とトキが共生
する未来の佐渡をイメージしています。トキ
の野生復帰を目指して2016年には40
年ぶりに純野生のトキのひなが誕生しました。



認定連携事業

生物多様性を守るために連携して取り組んでいる
事業を認定し、広報活動を行っています。

『NEC 田んぼづくりプロジェクト』

日本電気株式会社 (NEC)

茨城県霞ヶ浦周辺でNECグループ社員とその
家族が環境意識の向上を目的に2004年よ
り開始したプロジェクト。認定NPO法人アサザ基
金との協働で稲作から白菊酒造とのお酒造りまで
1年を通じて体験します。今後は「IT・ネットワーク



技術」を活用した生態系観測や生物多様性
保全に貢献する「生態系・生物多様性ソリュー
ーション」の開発・実証を推進する予定です。

100

『生物多様性の本箱』から

～みんなが生きものにつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発のために
UNDB-J推薦「子供向け図書」
を選定しています。



『田んぼの 昆虫たんけん隊』

著＝里中遊歩
イラスト＝田代哲也
出版＝星の環会

お 父さんの田舎に遊びに行った
主人公が、お父さんと田んぼの
昆虫たんけん隊を結成し、たくさんの
昆虫を見つけます。田んぼに住む生き
ものたちは、食物連鎖により自然界の
バランスを保っています。この本では
田んぼにいる昆虫から、そのバランス
のしくみについて教わります。

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

※ UNDB = United Nation on Biodiversity

「国連生物多様性の10年」の決定を受けて、2011年9月に設立。生物多様性の
主流化を目指して国内外のあらゆる主体が連携し様々な取組を進めています。

編集・発行

国連生物多様性の10年日本委員会事務局 (環境省自然環境計画課生物多様性施策推進室)

ホームページ URL : <http://undb.jp/> メールアドレス : shizen-suishin@env.go.jp